

6454

旧番号
6462

本至昭和二十四年
行頭大和
回高用農商銀行
議並附屬書類
(一)



高田農商銀行 = 對スル本行口融通金 = 関スル回議並 = 附屬証書類 (一)

高田農商銀行ニ對スル本行口融通金ニ關スル同議並ニ附屬証書類(一)

番號	日附	仕出元	件	名	限度	期日	備考
1	大正 12年9月15日	高田農商銀行 = 对スル特別融通ノ件			三五〇、〇〇〇円		
2	年10月2日	高田農商銀行 = 对スル特別融通限度 増額並融通期間延長ノ件			"	"	
3	年9月27日	高田農商銀行 = 对スル特別融通 更新ノ件			三五〇、〇〇〇"	12.27	
4	年8月20日	"			五五〇、〇〇〇"	11.28	
5	年11月28日	"			五五〇、〇〇〇"	12.28	
6	年12月27日	"			10.26	10.26	
7	年"月28日	"			五五〇、〇〇〇"	12.26	

大正二年九月十五日
高田農商銀行引取外、對レ
以降銀行株券担保にて特約融通一件
株式会社高田農商銀行(北長野郡高田町資本金一百万圓)
預金拂戻資金トシテ株券ヲ担保トシテ此字样、通
証書ヲ差入レバ降銀リ融通有り後旨缺出止。予傳
文書モレト破存ル。就テ左記条件にて済済ノ特



1

大正年月日

總裁

副總裁

監理事

審査部主事

印鑑

印鑑

大正二年九月十五日

新潟支店

審査部主事

印鑑

印鑑

新潟支店主事

印鑑

印鑑

大正年月日

箱根土地株 十万株 拌込額百二十五万日

一租保

一實業協会常日步

一期間 吉年十月十五日迄

一日步 二契五重

日本銀行新潟支店

一實業協会常日步

一期間 吉年十月十五日迄

一日步 二契五重

一實業協会常日步

一期間 吉年十月十五日迄



證

今田預金拂戻資金トシテ特ニ貴行ヨリ金參拾五萬圓也大正拾貳年九月拾五日御融通相受考處當行ハ豫而日本勸業銀行ヨリ土地担保ヲ以テ金參拾五萬圓也ノ融通ヲ受クル約束ニテ目下登記中ニ有之其ノ登記済次第日本勸業銀行ヨリ融通相受クベキニ付其ノ融通金ハ日本勸業銀行ヨリ並接貴行ニ文付セシメ期日前ト雖モ之ヲ以テ前記貴行ヨリノ借用金ノ返済ニ充ツベシ候為後日本訖書差入候也

大正拾貳年九月拾五日

印鑑

姓	名	所
年生	月	日
業職	年生	月
高田農商銀行	高田農商銀行	高田農商銀行



日本銀行御中

金を給ひ舊國内一體無事にて此度四十
當行に於て日本商業銀行にて取扱ひ
止舊國内大正前年七月廿五日會社開設
今日貰金満額資金一ツノリ共ニ貴行此金參付

1911/11/15

依頼書

今回事變ニ當行ニ於テ預金拂戻ヲ要ス
ル次第ニ有之候ニ就テハ金繰、都合上左記
担保ヲ以テ金參於五萬圓也。吾融通相受度
候ニ付此際一時限リ手形割引取引相頼
度此段及市依頼候也。參於五萬圓也。

融

大正拾貳年拾月拾六日

十一年續中ニ有

之其登記済次第日本

島郡高田町三百拾番地

會社高田農商銀行

融

通相受クベキノ件其融

融

日本銀行御中

馬モ之ヲ以記前記貴行ヨリ借入金ヲ送

六箱根土地株式會社株式拾萬株也

大正拾貳年九月拾五日



相手御文



日本銀行御中

金參拾五萬圓内一體無
當行の事也日本通華銀行にて土井町某
庄吉(田中)大正拾貳年九月拾五日
合田貢金無決資金ナシノ事ニ
相手御文

依頼書

今回事変ニ當行ニ於テ預金拂戻ヲ要ス
ル次第ニ有之候ニ就テハ金繩、都合上左記
担保ヲ以テ金參拾五萬圓也吉融通相受度
候ニ付此際一時限リ手形割引取引相頼
度此段及古依頼候也參拾五萬圓也
融大正拾貳年九月拾六日下手續中ニ有

通相手御文

日本銀行御中

相手御文



清六箱根土地株式會社株式拾萬株也



行ヨリ融通相手々ベキニ付其融通
勵業銀行ヨリ直接貴行ニ文付
前ト雖モ之ヲ以テ前記貴行ヨリ
返済ニ及バシ候為後日本記書

大正拾貳年九月拾五日



日本銀行
御中

日本銀行會社株式 本萬社也

日本銀行

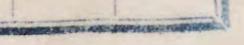
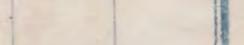
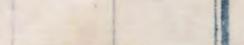
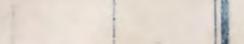
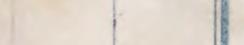
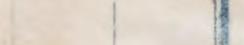
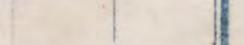
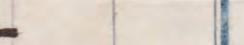
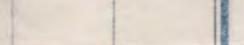
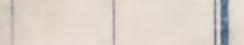
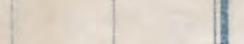
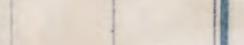
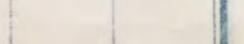
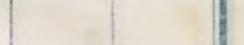
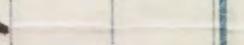
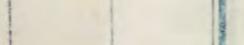
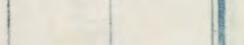
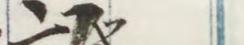
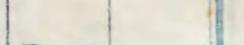
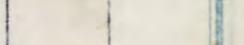
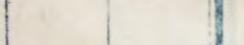
日本銀行

大正八年五月廿六日

支店長 木村謙新也

新日本銀行一郎郎「平野博之助」
且新日本銀行參於五萬圓金庫受
「六萬二千五百元」
金庫受「六萬二千五百元」
金庫受「六萬二千五百元」

利貢書



大正九年九月十六日

日本銀行名下



大正九年十月二日

日本銀行

總裁

副總裁

監理

審查部主事

司理

司理

司理

宮田農商銀行、對外持券額通、限度
增加並定期間延長、件
之因記条件、通改定改、可也、哉

亥月十五日附決裁、往々條件、除、
一、累計、限度、三十五万圓

一期、向、年十月十五日迄

一、租、保、箱根土地株、十万株(拂之百二十五万圓)

日本銀行

今四、条件
一、審計限度 貸出
一、期 内 限 九十万円
一、期 内、本年十月三十日迄

保 以相模 土地株十三萬株（拂込百六十二万五千日）
一、九月十五日同前加差入レタル 記十万株ト市引追加差入
レタル 三万株トテ共通担保トスルコト

一、重役個人、連革保証書徵求スルト（徵求齊）

一、日本勸業銀行より資本金又入出額五十五万円返済又ヘキ行
支(三十五万円余)通り微求ルコト(同)



依
賴
書

今回事變ニ當リ弊行ニテ預金拂戾ソ
要スル次第ニ有立美ニ就テハ金縛ノ都
合上左記担保シ以テ金五拾五萬圓也
吉融通相受度矣ニ付此除一時限ノ手
形割引取引相願度次般及古依賴
矣也

大正拾貳年拾月貳日

融通用金ハ大正
元年拾月廿日備用

日本銀行名



東京府北豊島郡高田町三百拾壹號
株式会社高田農商銀行

鶴守彌太



貴行ヨリノ借入金、返済ニ充ツベク候
為後日本証書差入候也

大正拾肆年於月廿日

日本銀行



被は御文

日本銀行



依頼書

行之於預金拂度シ要スル
保証書上に記担保シテ
通相變度此有此際臨時
及ゆ依頼狀也

左於或年於月詔音

株式 日本銀行



被は御文



一箱根土地株式會社株式於萬株也

就



別ニ保管セアリタルモノチ假込タルト

貴行ヨリノ借入金、返済ニ充ツベク候
為後日本証書差入候也

大正拾九年於月貳日

日本銀行



祇は席次

依頼書

今面、事務ニ當り弊行之証領金拂度レシ要乞
次第、有之此ニ就テ金縛、都合上大任担任シテ
金矣拾五萬圓、如少融通相度候、此有此際臨時
手形割引相取度此段及用依頼狀也

乞於貳年拾月貳拾日

株式 日本銀行



祇は席次



一箱根土地株式會社株式於萬株也

貳





信稿書

今田、事務著、海、銀行、總領事
次第、行之狀、就、企圖、都、上、大
金、你、檢、日、文、為、通、日、安、政、
正、形、刻、日、本、此、設、及、你、檢、
在、你、印、會、用、於、君、

日本銀行 印

一、日銀土地得、為、許、得、於、公、萬、



謬

今回預金耕戻資金トシテ特ニ當月ヨリ入金
參致五萬圓也大回於式年於月翌日借融通
支更候事又當行ハ豫而曰年勵業銀ノヨリ
土地担保ヲ以テ金參致五萬圓也ノ融通リ之
クル約束ニテ目下午續中ニ有之其多記
崎次第日本勵業銀行ヨリ融通支更ノ又キ

牛勅宗鋗ノヨリ立候
期々あト莫モ之ヲ以テ
入室、及情ニ充之シテ

今者吾子之言過矣。吾不以爲然也。

別ニ保管シアリタルモノヲ綴込タルか

10/25.6/5
高
印

今回預金拂戻資金トシテ特ニ半月ヨリ金
參致五萬圓也大貰於式年於月謀於四月產融通
支更候至當寧アハ豫而曰年勸業銀ナヨリ
土地担保ナシ以テ金參致五萬圓也ノ融通ナシ更
クル約束ニテ目下年續中ニ有之其又記
崎浦市口本勸業銀行ヨリ融通ナシヌキ
乍其融通全ノ式年勸業銀行ナヨリ支拂
半月ニ立付セシメ期ノアトヨモニラバテ
ア紀半月ヨリノ拂入至、及情ニ充之ヲ
候、高屋度、ヨシム所居主ノ傍也



證

高
印

此件是爲某人所持之借據，內容詳載於上方。借據上蓋有兩枚紅色方形印章，一枚為「高」字，另一枚為「印」字。下方有手寫簽名「高」。

此件是爲某人所持之借據，內容詳載於上方。借據上蓋有兩枚紅色方形印章，一枚為「高」字，另一枚為「印」字。下方有手寫簽名「高」。

證



今回預金拂拭資金上シテ特、某
參務五萬圓七百圓於今年於月於四
方文候事當行、號而日本勸業銀
土地銀行、以之金安於五萬圓也、雖
勿本年十二月續中、有之甘
猶次第日本勸業銀行ヨリ融通あり
併其融通全、日本勸業銀行ヨリ
半引之在セ之ノ期、方ト異モ之
否記考リヨリ、考入全、空橋之
候、為度主事迄未了修也

立田・海老・池・鶴・作・下・佐・藤・喜・洋

立田・海老・池・鶴・作・下・佐・藤・喜・洋



大白圭
辛卯年
九月
廿五
立

日本銅刀

卷之三

卷之三

日本銀行

營業局長

卷五

副總裁

要典審查部主事

卷之三

卷之三

卷之三

大正拾貳年拾月廿九日

高田農商銀行二封。臨時特為融通更新一件。
九月四日

三十五万圓（本日期日）。“本日日本勸業銀行ヨリ支接
支拂シ受ケ決済致シ處、手許金肆、都合之燈來呈
ノレ、余考ニ且早トシ更ニ古通一方失出外ニ此ノ事
アリ、左

記条件ニテ申許諾相成可也哉
一貸出尙三十五万円

日本銀行

一期日，左午十二月廿七日

一、担保 箱根土地株 十三万株
二、重役個人连第 保証書ヲ徵求スルコト（清）
（他人口 五十五万口、担保ト共通）

高田農商銀行



依頼書

今回事変ニ當リ敵せ行ニ於テ預金拂戾ラ
要スル次第ニ有之候ニ就テハ金繩ノ都合
上左記担保ヲ以テ金參於五萬圓也清融
通相受度候ニ付此際一時限リ半形割引
取引相頼度手段及付依頼候也

大正拾貳年於月日於九日



日本銀行
高田農商銀行
北里島郡高田町三百拾番地

株式會社高田農商銀行



日本銀行

記

一箱根土地株式會社株式於參萬株也

大心者亦其本心也。其外之
事一益無以又謂之无爲而
無所造作。故曰“无为一無爲一無爲一無爲也。一
叶落得自然以之“金華落生龍回內而歸
城以之“火海”“五山海”“燭”“金燭”一燭一
合而回燭一燭也。燭一燭未滅。燭一燭滅而未滅也。

日本銀行

總
卷
五

序

吏部主事

卷之三

卷之三

亮田農商銀行二對三臨時特為融通更新一件
本月二日亮田農商銀行二對三全金五十五萬圓一租保
箱板土地株（臨時融通致小毛）、期日到未，處未
早勸革銀行卜一向，於九八年候完了，見此到

三十步許諾本可也哉

日本銀行

一期 日 本年十一月廿八日

今
一、担 保 箱根土地株 十三万株

於立為固也大正 承他人口 三十五万田貸出ノト共通(担保)

受
一、重役個人连带保証書 微求スルコト(清)

粗筋 以テ及至五万田貸出ノト共通(担保)

其額過半以上者 有之其後亦可通(担保)

行
本許諾書入付



郵便

三

SM

郵便

大正於貳年於月參拾日



日本銀行第

龍溪府

依頼書

今回事麥ニ當リ弊行ニ於テ預金拂戾ヲ要
スル次第ニ有之候ニ就テハ金線、都合上左
記担保ヲ以テ金五拾五萬圓也。融通相受
度候ニ付此際一時限り手形割引取引相
願度此段及後依頼候也。

大正於貳年拾月參拾日

日本銀行第

記

於參萬



拾萬株ノ拾
參萬株ト計正

一箱根土地株式會社株式 拾萬株也

蘇東坡集會於蘇州
其事甚歎

大同者也。非此也。則無以

國朝之歲成甚少實無也

此題與上題同，但題中所指之「公」字，當指公私之公，即指公事，非指公私之公。故其解法亦與上題不同。

卷之三

日本銀行

大正拾肆年二月十

卷之三

金石錄

四

11

卷之六

宮田農業銀行ニ對スル臨時特別融通更新件
本年十月三十日宮田農業銀行ニ對シ五十五万円
(不動產荷貸、擔保株券)切替融通後此ノ期日
到来、日本勸業銀行ニ於ケル手續、猶未だ完
了セザル協ニテ承認シテ差入レ更ニ切替融通
願出ル、就テハ左記条件ニテ附許諾申成可也哉
一、貸出高、五十五万円

日本銀行

今面積一担保 箱根土地株十三万株

一、期日
本年十二月廿八日

通相多候客（担保卜共通）本初

一、董殿國（董乃華）二女

卷之三

本日本印紙
訖
今回預金拂戻資金トシテ特ニ貴行ヨリ金五
拾五萬圓也大昇御年九月廿八日以融
通相受候皮安當行ハ豫而日本勸業銀行ヨ
リ土地担保ヲ以テ金立杭立矣圓セノ融通
ヲ受ケル約束ニテ同下手續中ニ有之其登記
清次第日本勸業銀行ヨリ融通相受クベキ^レ
其融通金ノ日本勸業銀行ヨリ直接貴行
ニ立付セシメ期日前ト虽モ之ソ以テ前記貴行
ヨリノ借入金ノ返済ニ充ツベク候為後日本
訖書差入候也

大正拾弐年拾壹月廿八日

日本銀行第



依頼書

ヤ島

今回ノ事變ニ當リ弊行預金拂戻資金トシ
テ裏ニ大正拾弐年拾月參拾日金五拾五萬圓也
貴行ヨリ御融通相受於壹月廿八日期日到
來ノ處弊行資金ノ回収按々シカラス候ニ就
テハ金繩ノ都合上株券担保ヲ以テ金五拾五
萬圓也引續キテ融通相受度候ニ付牛際
手形割引支取引相願度此般及古依頼候
也

大正拾弐年拾壹月廿八日



東京府北豊島郡高田町三百拾番地
株式会社高田農商銀行
常務取締役

福澤卿次



東京府北豊島郡高田町三百拾番地
株式会社高田農商銀行

日本銀行第

總裁
副
理
事
營業局長
審查部主事
司
金
額
付
出
日
期
年
月
日
大正拾貳年三月廿七日

日本銀行

大正拾貳年三月廿七日

總裁
副
理
事
營業局長
審查部主事
司
金
額
付
出
日
期
年
月
日
大正拾貳年三月廿七日

高田良房銀行對外臨時特別融通更新一件
大正拾貳年三月廿九日高田良房銀行對外
一担保株券一號更折股小元一期日利未收
切考融通額出小元就用左記条件二事許諾
相承可也哉

一、貸出高 三十五万圆

一、期 日 大正拾貳年一月廿五日

大正 年 月 日

一社保 箱根土地株

一重皮個人連帶保証券ヲ微末スルコト(附)

日本銀行

勘定引取通帳し理由不變シ只促進ノ圖

丁酉年八月

右件小切手へ收り

依頼書

千島

今回一事變ニ當リ弊行預金拵灰資金トシテ
叢ニ大正拾弐年於月廿九日金參拾五萬圓アシ
半行ヨリ支融通相受ケ拾弐月廿九七月期日到来
ノ處弊行資金ノ回収擇々シカラス候ニ就ハ
金繩ノ都合上株券担保ヲ以テ金參拾五萬圓
也引續キ支融通相受度候ニ併シ際手形割
引迄取引相願度此般及支依頼候也

大正拾弐年於月廿九日



東北宣島郡高田町三百拾番地
株式高田農商銀行
業務部

鶴堂御次



日本銀行第下

大正 年 月 日

高田農場銀引對し臨時特別補追更替一件
本年十一月廿八日高田農場銀引對し五十五万圓(不
動產勘定二ノヲ担保株券一紙通更折改小元)、期日到来
ノ日東勸業銀行于ケル手換未済、所ノ以テ如紙証
券リ支入レ至、切考証通額出小元就ケ、左記条件ニテ
仰許諾申可也哉

一 貸出高 五十五万圓

日本銀行

大正拾貳年三月廿八日

營業局長

總裁

副總裁

朱林

理 事

川西

要再圖

審查部主事

宣城

印中

勝

和志

金

利

和

金

利

和

金

利

和

金

利

大正 年 月 日

日本銀行

一期 日 大正十三年一月廿六日

一 担保、箱根土地株

二 重尾個人並節保証書ヲ徵求スコト(傳)

勘銀ヨリ既過千金シテ一千候未了ナシコトヲ種種、理由上シテ
依頼上ニ記載セシムニテ、先にハタリント遇ム、今度行ムセシム
及ハサヘ乍往、模様ニヨリテハ匪直ノ事情ニツキ詳細説
明ナ未メ、且ツ巖室ノ其一促進ヲ圖ラシケル様ニシタ

依頼書

今同ノ事変ニ當リ弊行預金拂戻資金トシテ
曩ニ大正拾弐年於壹月訖迄八月金五拾五萬圓也
此行ヨリ吉融通相受ケ本年拾弐月訖迄八月期
日到來ノ處弊行資金ノ回収様々シカラス候
就テハ金繩ノ都合上株券担保ヲ以テ金五拾
五萬圓也引續キ吉融通相受度候ニ肖ニ際
年形割引吉取引相頼度此般及吉依頼候
也

大正拾弐年拾弐月訖迄八月

東洋銀行
高田農商銀行

支店
高田農商銀行

總經理

總經理

日本銀行券

日本銀行

大正拾參年壹月廿五日

總裁

副總裁

理事

審查部主事

監察官

司理

司理

司理

司理

方田義弟銀行、對レ临时紙通更替一件
昨年九月十九日 方田義弟銀行、對レ株券ヲ担保トレ
金三十五万日臨時紙通ヲ供へ其後一回支新改シモノ、
期日到来、支更ニ却考紙通紙出ル、就テ左記条件
ニテ少許諾可可也哉

一貸出寫 三十五万日

一期

日

月

日

81

大正

年

月

本年二月廿三日

大正 年 月 日



日本銀行

一担

保 管相土地株 十三万株

(不動産荷借合 五十五万四千石通担保)

一重役個人连帶保証書ヲ徵求スルコト(附)

前記之他株一二千支。拂上時候十七日

依 賴 書

今回ノ事変ニ當リ弊行預金拂戻資金
トシテ裏ニ大正於年於年於年於年於年
萬圓也貴行ヨリ吉融通相受ケ大正於年
壹月於年於年於年於年於年於年於年
回収接々シカラズ候ニ就テハ金繩ノ都合
上株券ヲ以テ金參於年於年於年於年於年
融通相受度候元此際手形割引吉取
引相願度此既及吉依賴候也

大正於年壹月於年於年於年於年於年



高田町三百拾壹五
会社高田農商銀行

承字號



日本銀行史

日本銀行

大正拾九年壹月廿壹日

總裁
副總裁
理事
木村
東洋公司
審查部主事
營業局長
總經理
甲申
田勝
佐藤
吉宗

大正年月日

9

日本銀行

記条件ニテ所許諾不可無成

一、貸出方 五十五万圓

一期限

本年三月三十日迄

一、担保

箱根土地株 三万株 (十二月五十万株)

本日增加擔保左ノ通

箱根土地株 五千株 (十二月五十万株)

東京土地株 一万株 (合上)

箱根土地株	130,000株	@ 17	2,210,000
東京土地株	10,000株	10	100,000
			2,310,000

共計
担保 (箱根土地株十万株) 下共通トスルコト

一、重役個人连帯保証書ヲ徵求スルコト (傍)

箱根土地株 付價十七回

大正 年 月 日 東京土地株 付價十七回

五十円松之助ノ
付價四十日

依 賴 書

過般、震大失ニ因リ弊行預金拂戻資金トシテ大正於武年
於月二日全数立券固也。是行ヨリ古融圓事之其後三回功多
立融圓事更レモト、期日到来致以支弊行資金、回收
撲々レガレバ且フ當行が豫而日庫勧業銀行ヨリ土地担保
ヲ以テ全額預立券固セ、融圓ヲ全シテ、古文庫候。予
ヲ仰手造立券ジル事ノ為メ期日迄至全ノ運セ、龍邑恐縮ノ
事リ、由來レハ就テ、是庫勧業銀行アトノ手續キ、極力奉直ノ上
原ウモ大正壹年叁月吉日迄、ハ寛ク可及様努力可致尙不
累々差入立券根並地移資金、ノ移本參事務也。(取扱ノ事務並
外ニ今後更ニ増擔保トシテ事多立券余念無新規共立券務也)

(立券存於前)

五拾九拂旦

菊根土地相立券換立午相(立券存於前) 一月九日

申の事務所あらば誰誰よりは要請一歩賄通ある事多般の關係在是

大正八年六月廿六日



日本銀行

下

相生源

人念訖

留船宿大考ニ因リ繩川預金拂戻資金トシテ大正八年
九月廿日以降全額五萬圓也乃後半月ヨリは融通
シテカナテ唐日裏で全額均ちに占融通ありナリト此を繩行が
豫て本勘業銀行へ担保トシテ差へノ約束ヲ取締ハ繩行室
役室便せん事主記帳全括而有土地一書大方存極力凡
て百十坪ア様努力至可也一壁クモ大正九年三月廿六日
ヒ糸子の前より是若主記帳全括而有土地ヲ日本勘業銀行
ニ担保トシテモ大正九年九月當初銀行借入金リトテ無事
遣去融金ノ返済ニ充當可在外案繩行が考行ヨリ大正八年

共考行目
内入



本日印鑑
小高人參



年月日未定
切手一枚附送
あゆみに金を貯め
て開けと付て土の花
新年度の支度工事等に使ひ
方より申す所
東京府北里島郡高田町三百拾番地
株式高田農商銀行

大編卷之二

清江

會社高田農商銀行

卷之三

日本銅河名

今回預金拂戻資金トシテ特ニ貴行ヨリ金五拾五
萬圓也大正癸未年壹月參秋亨吉融通相受ケ候
處當行ハ豫而日本勸業銀行ヨリ土地担保ヲ以テ
金五拾五萬圓也ノ融通ヲ受ケル約束ニテ目下手
續取匣ビ中ニ有之其登記済次第日本勸業銀
行ヨリ融通相受ケヤキニ付其融通金ハ日本勸業
銀行ヨリ並接貴行ニ交付セシナ期日前ト異モ之
シ以テ前記貴行ヨリノ借入金ノ返済ニ充ツベク
候為後日本証書差入候也

大口於參年壹月參於京

高田農商銀行
株式會社
高田農商銀行

卷之三

日本銀行第十一



3 SEN 3



訖

今回預金拂戻資金トシテ特ニ貴行ヨリ金五
於五萬圓也大正於參年貳月貳於日吉融
通相受候處當行ハ豫而日本勸業銀行ヨリ
土地擔保ヲ以テ金五於五萬圓也ノ融通ヲ受ケ
ル約束ニテ目下手續取運中ニ有之其登
記済次第日本勸業銀行ヨリ融通相受ク
日本勸業銀行ヨリ直
ハ日前ト虽モ之ヲ以テ
ソノ返済ニ充ツベシ候

別ニ保管シアリタルモノノテ綴込タル

考後日本証書署ノ候也
大正於參年貳月貳於八日